

令和元年度 学校関係者評価

本荘高等学校定時制課程

	1	2	3	4	5
項目	学習指導について ・授業研究等	特別活動について ・部活動や学校行事	生徒指導について ・基本的生活習慣等	進路指導について ・進路行事、進路情報等	校務一般について ・校務分掌、PTA、同窓会、地域との連携等
学校関係者のご意見・ご感想・ご提言等	・改善活動が濃い内容で、敬意を表します。KPIが必要ではないでしょうか。 ・テストの得点だけでなく、生徒の努力や取り組む姿勢を含め学習評価を行っていることは定時制において不可欠な点であり、指導は的を射ている。 ・授業が生徒の実態にあった内容で、教え方もわかりやすいと感じている回答が多いようで、先生方のご苦労に感謝です。 ・生徒によって習熟度に差が出るのを改善するための取組姿勢が見られ、評価できます。 ・働きながら学ぶ生徒に学ぶ楽しさを教え、目標を立てさせることで授業に励みがでると思うのでご指導よろしくをお願いします。	・定時制課程としては、充実した活動と評価でき、継続が重要と考えます。 ・球技大会での学年を越えた取組やなべっこによる体験的学習は有効であったし、評価できる。 ・レクリエーションを通じて大切なことを学べると思います。電車内でのマナーは定時制生徒のみならず、全日制の生徒にも指導が必要と考えます。 ・部活動は生徒の積極性を養うと同時に人間形成を培う大切な授業であると思うので、より工夫を凝らした部活動をお願いします。 ・学校行事については、より生徒に自主性を持たせた行動計画をお願いしたい。 ・（去年は卓球と剣道、）今年度、剣道において全国大会出場を果たしたという知らせは、快挙であり、定時制課程の生徒にとっては勿論のこと、学校全体にも勇気を与えることだと思います。	・自己評価は妥当と考えます。 ・全職員によりここの生徒に関する意見交換がなされている点は心強く思われる。ソーシャルスキルを身につけるよう今後も継続的な指導をお願いします。 ・生徒一人一人のことを理解して、指導に当たる先生方のご苦労に感謝です。 ・定時の心得の見直しなど改善に努めていることを評価します。 ・規則などは、押しつけではなく、生徒自身が納得しなければ効力を発揮しないことから、これまで以上に生徒と一緒に改善を加えていただきたい。	・PとDから見て充実した活動と考えます。 ・日常的に個々の生徒の進路について教員間で話し合っていることは評価できる（保護者とともに進路指導に取り組めるよう、今後も工夫が必要）。 ・先生方の負担はあると思いますが、保護者や生徒にとっては先生方は頼れる存在だと思います。 ・進路指導に職場定着支援員の力を借りながら、保護者、本人、学校が一体となり取り組んでいる姿勢を評価します。	・リスクマネジメントの側面が脆弱な印象があり、重点目標化すべきと考える。 ・多岐にわたる分野を少ない教員が分担し当たる点、大変さが理解できる。 ・同窓会や地域が応援できることがもっともっとあればよいと思います。 ・各分掌が連携を図り取り組んでいることで成果が出ていることを評価します。 ・保護者や振興会とも最大限の連携を図り、定時制の特性を発揮してください。 ・「働学一体」を掲げ、七十周年を迎えた伝統校であるが、入学者の減少が続いているのが現状です。働きながら学んだ卒業生の言葉からは、多様な生徒が互いに刺激を受けることができる教育環境であることがうかがえます。一方、人口減少率が全国一位で少子化も進む秋田県において、定時制課程を存続させていくためには、社会全体で支えなければならないと思いますが、難しい学校経営が要求されると考えます。
評価	A	A	A	A	B

《 A B C 評価 》
 A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

令和元年度 学校評価（自己評価抜粋）

本荘高等学校定時制課程

	1	2	3	4	5
項 目	学習指導について （教務部・研修部・各教科等）	特別活動について （特別活動部・キャリア教育推進委員会・支援委員会等）	生徒指導について （生徒指導部・保健部・教育相談部・支援委員会等）	進路指導について （進路指導部・支援委員会・各学年部等）	校務一般について （総務部・図書情報委員会等）
重点 目標 等	・校内研修の充実を図る。 ・授業改善に向けた情報発信に努める。 ・各教科の学びと日常を結びつけて理解を促す。	・生徒が主体となって生徒会行事を運営する。 ・生徒理解を深め、自己有用感を持たせる場を設ける。 ・学校生活全体を通じたキャリア教育の実践。	・「定時の心得」の充実、共通理解と生徒の自己管理意識の醸成を図る。 ・生徒と学級を支援する生徒指導の充実を図る。 ・基本的生活習慣の確立を促す。 ・生徒の自己理解を促す活動の充実。	・卒業予定者の進路希望の実現。 ・家庭や関係機関と連携した効果的な進路指導。 ・進路情報の整理と進路関係行事の効果的な実施。	・PTA、教育振興会と連携し教育環境の充実を図る。 ・危機管理体制の強化を目指す。 ・全日制と連携し、定時制のHPの一新と円滑な更新を行う。
実施 状況 ・ 達成 状況	・年2回の授業アンケートを実施した。また、生徒の特性の把握や他教科の授業を参観することにより授業改善を図ったが、参観できる先生に限られており、効果は限定的であった。 ・新教育課程完全実施に向けて、授業改善を呼びかけるとともに、評価方法に関する内規を改定するなど、準備を進めている。 ・個人ホワイトボードを使用した意見交換や調べ学習など課題解決的な要素を取り入れた授業づくりを行った。 ・プレゼンや作品制作を通し、他者に表現する経験取り入れたり、学びを深めさせたりする授業づくりを工夫している。	・いくつかの学校行事（なべっこ、ミニ縁日、球技大会）では例年以上に、生徒会や生徒を中心に企画、立案するよう指導した。 ・中学生向けの体験入学を、生徒会主体に実施し、体験入学生にとっても、生徒会員にとっても得るものがあったと思われる。 ・各学校行事でも、ソーシャルスキルの育成を念頭に（借り上げバスではなく、敢えて公共交通機関を利用して移動するなど）、計画実施した。 ・生徒会誌の制作については、準備の時間を十分に割くことができず教師主導になってしまった。	・「定時の心得」を年度当初に確認したが、機会を捉えて繰り返し指導する必要がある。今後は生徒の進路目標に即した指導ができるよう、「定時の心得」の内容を改訂していく予定である。 ・新入生に対して、授業の様子調べとSENチェックリストを実施し、より支援学校の教育専門監の助言もいただきながら個別の指導計画作成に活かした。 ・職員が手分けをして、生徒のアルバイト先を年2回訪問し、担当者との情報交換や、生徒への励ましと指導に役立てた。 ・LHRでの自己理解や他者理解を促す活動を支援したり、デートDV予防講座を実施して啓蒙に努めた。	・学年と進路指導部が連携し、応募準備を進め、卒業予定者のほとんどが10月末までに進路決定できた。 ・職場定着支援員と密に連携し、ハローワーク、応募先企業、保護者等との対応を行った。特に保護者に対しての専門的立場からの説明は大変有効であった。 ・県やハローワーク主催の進路関係行事に加え、独自に職場定着支援員による講話や進路決定者による「進路体験を語る会」を実施し、1、2年生の進路意識の高揚に貢献できた。 ・アルバイト先訪問の情報を職員間で情報共有し、適性や本人への指導に役立てた。	・保護者間の積極的な関係づくりに助けられたが、一部の学年に偏る傾向がある。 ・複数の分掌が協力し、防災マニュアルを改訂することができた。また、防災訓練も工夫して実施した。引き続き、PDCAによるマニュアルの改訂や訓練の工夫を行っていきたい。 ・定時制課程HPを一新し、行事や時期に合わせて更新を行うことで、中学生や地域への情報発信に努めた。 ・秋田県教育関係職員互助会や有志からの寄贈図書を活用し、新規の図書コーナーを開設した。
評価	B	B	B	B	B
次 年 度 へ の 提 言	・授業参観週間として5月を検討。 ・授業アンケートの見直し。 ・理解力、習熟度の差が大きいクラスの授業形態等の検討。 ・共同学習ができる環境の整備。	・学校行事の移動等は公共交通機関利用を継続して計画。 ・異学年での交流機会を増やす。 ・キャリア教育の要は特別活動であるという考え方の浸透。 ・より支援学校との交流の継続。 ・生活スキルトレーニングの継続。	・生徒会と連携した「定時の心得」の改訂、充実の継続。 ・継続的な生徒情報の共有。 ・スマホ、ゲームについて指導の工夫が必要。 ・事例検討、相談スキルに関する職員研修の継続。	・より保護者を巻き込んだ指導のあり方を工夫する。 ・進路活動の手引き、面接マニュアル等の整備。 ・アルバイト先訪問の継続と情報の共有。 ・自動車免許取得の重要性を周知。	・保護者、同窓会、振興会等への定期的な情報提供を模索する。 ・防災マニュアルの継続的な検討。 ・避難訓練、防災教育の機会を確保。 ・定時制HPの円滑な更新を組織的に行う体制づくり。 ・図書管理の工夫と責任の明確化。

《 職員自己評価 》 A：達成 B：ほぼ達成 C：やや不十分 D：不十分